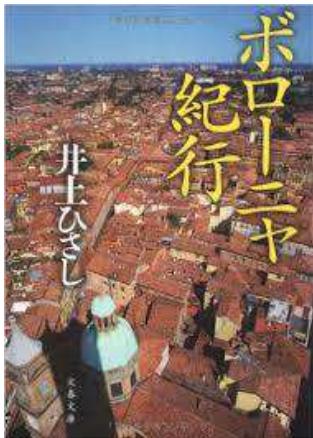


# その本はそこに

## 読書案内 2 ~日常を守る~

### 「ボローニャ紀行」 井上ひさし



#### 内容目次

- テストーニの鞄
- 二つの塔
- 柱廊の秘密
- 大きな広場
- チャップリン・プロジェクト
- 街の動力
- 山の上の少年コック
- 歌う修道女たち
- 大泥棒とこそ泥
- 社会的発明とはなにか
- 日常が大事ということ
- 聖ドメニコ、わが恩人
- 演劇の役割
- そのとき、坊やは、背後から射された
- 市長の作り方
- 花畠という名の都市
- 牛を連れたストライキ
- 三枚の立て札
- 二つの選挙
- 二つのイタリア
- 旅のノートから

◆文化による街の再生、古い建物を壊さずに内部を現在に合わせて使う「ボローニャ方式」。

- ・煉瓦2階建て工場棟・タバコ倉庫・事務所を補修
- ・3つの映画館（子ども館・イタリア館・外国館）
- ・3つの専門図書館（映画・写真・グラフィック）
- ・ボローニャ大学芸術学部の音楽、演劇、映画学科の実習スタジオ
- ・フィルム再生工場（修復したチャップリンの映画を子ども館で観る）

いずれの場合も住民と大学が発案し、憲法で保障された社会的労働組合という制度を使い行政に協力させる。住民と大学と行政とが力を合わせて、都心に潤いと厚みを取り戻そうとしていること、そこから新しい価値が創造されていく子細の報告です。

地区のことは市のお役人に考えさせないと決めていることもわかりました。お役人にはあくまでプロの調整役に徹してもらい、地区のことは自分たちで考えることで守る。これもボローニャ人の流儀のようです。

#### ◆ボローニャの人たちのことば

「好きなことに夢中になっている人たちに資金を提供すること。」

「困難にぶつかったら過去を勉強しなさい。未来は過去の中にあるからです。」

「学校や博物館というのは、そういうところなのです。」

「古いものの前に立つと、歴史が、過去が、そして消え失せたはずの時間が、すべてのものが、一瞬のうちに目の前へ立ち現われてきます。」

そのことによって、だれもが、自分が現代に孤立して生きているわけではないという真理を直感するんですね。」

そして自分が過去と未来をつなぐ役目を背負っているという責任を自覚します。大事なことは、こういったことがすべて人間を勇気づけるということです。」

#### ◆井上ひさしさんのことば

「日本の未来を考えようと、よく言うけれど、日本も未来も抽象名詞にすぎない。こんな抽象的なお題目をいくら唱えても、なにも生まれてこない。だから日本の未来を具体化することが大切だ。では、どう具体化するか。それは、毎日、出会う日本の子どもたちをよく見ることだ。彼ら一人一人が日本の未来そのものなのだ。その彼らのために、わたしたち大人は、なにかましなことをしてあげているだろうか……」

「そしてその守るべきものとは、誇大妄想狂たちが発明した空疎な言葉や抽象概念ではなく、具体的な人間や目に見える景色のことです。」

「日常の中に楽しみを、そして人生の目的を見つけること。商店街へ出かけてうんと買物をしたり、遊園地へ行ったり、温泉やなんとかランドへ出かけたり、そういう非日常の方法でしか楽しむことができないのは、少しおかしいのではないか。ただし、日常の中に人生を見つけるには、みんなでそれを叶えてくれる街を作らねばならない。」

(案内：黒野晶大)